

私を変えた先生との出会い

「学校の先生になる。」小学校低学年から漠然と思い描いていた私の夢は、先生方との出会いで、確実に前に動き出し、とうとう、あと一歩のところまでやってきた。

小学校の先生方の優しい笑顔。それだけで、女性の先生の姿は私の憧れだった。そんな中で出会った一人の先生は、毅然とした態度で叱る先生だった。叱る内容は筋が通っていたし、良い行いはとことん褒めてくださる方だった。この先生との出会いで、私は「先生みたいになりたい。」と、はっきりとした先生像をもち、日々の生活でも筋の通った発言をするように心がけてきた。

ところが、思春期を迎えた私に、友だち関係で「周りに流されることも必要かな。」と心が揺れる日々が訪れた。その悩みを払拭してくださったのが中学校で出会った多くの先生方だった。「自分の行動に自信をもっていいんだよ。」「凜さん、大好き。」と私をいつも温かくフォローしていただき、一人の人間として扱っていただいたことで、自分を信じ前に進むことができた。「この先生方といつか一緒に仕事がしたい。」私の夢は、またひとつ大きく膨らんだ。

今年、私は受験生。十年来の夢を叶えるために、教師の道に進むための大学を目指している。高校三年間、担任をしていただいた先生に夢を語ったとき、「凜になら、自分の子どもを任せたいと思う。」とあっていただき、照れくささと同時に何とも言えない大きな喜びと少しの勇気を得た。いよいよ受験校を絞るこの時期に、両親が「あなたは先生に恵まれてるね。」と何度も言ってくるが、本当にその通りだと思う。先生方の一言が、子どもにどれほどの力を与えるかということ、私は経験している。私が受けた温かい言葉を今度は次の時代を生きる子どもたちに必ず伝えたい。

平川 凜
(高校生)